

山行報告

★大菩薩嶺(9月12日)

参加者 会員(障害者8名、健常者13名)

塩山駅で電車を降り、タクシーで福ちゃん荘に向かう。福ちゃん荘まで車で入ると、楽に山頂に立てるのでありがたい。タクシーの中で、Kさんはこれまでに3回登ったと話している。その内の一度は、Tさんにサポートしてもらい、テントを持って登ったらしく、テント場に付いたのは、真っ暗になってからだったらしい。なつかしく貴重な思い出ですね。

福ちゃん荘で自己紹介をして、歩きはじめる。今回は、唐松尾根から時計回りに回って、福ちゃん荘に戻るコースだ。こちらの方が下りが緩やかなので、楽だと判断して計画した。

唐松尾根は、真っ直ぐ大菩薩嶺に上がっているが、危険なところもなく、比較的登りやすいルートだ。しばらく登ると、木の間から富士山が見えてきた。2週間前に登ったばかりのSさん親子には、感慨もひとしおだろう。

さらに登ると、樹林が切れ始め、視界が良くなってくる。富士山とその周辺の山々をはじめ、南アルプスの山々が一望できるようになってくる。足下には、ウメバチソウやノコンギクなどが咲き、ススキが穂を伸ばしている。山は一足早く秋の雰囲気が出ているようだ。



雷岩に到着。後は大工湖の大菩薩湖

雷岩に到着し、そのまま大菩薩嶺の山頂を目指す。樹林帯に入ると、ひんやりしていても気持ちがいい。うだるような暑さの下界とは大きな違いだ。

少し下って登り返すと、大菩薩嶺の山頂に到着する。この山は、日本百名山に選ばれている。展望がないので、静かな山頂だ。集合写真などを撮って、雷岩に戻る。



大菩薩嶺の山頂にて

雷岩で昼食を取り、稜線を歩いて、大菩薩峠に向かう。この尾根は、クマザサの尾根で、非常に見晴が良く、気持ちよい尾根だ。富士山は雲に隠れてきたが、まだ、南アルプスはよく見

え、ふり返ると、奥秩父の金峰山や奥千丈岳がよく見える。その左奥には、八ヶ岳の赤岳と権現岳も見えていた。



大菩薩峠付近の稜線を行く

妙見の頭を超え、避難小屋を通過し、もう一つ小さなピークを超えたその先が大菩薩峠だ。峠にある介山荘で、数人の方がかき氷を買って食べる。一人で一つは多すぎるということで、お裾分けをたくさんいただいてしまった。介山荘の脇には、トリカブトが咲いていたが、何というトリカブトだろうか？

介山荘からは、幅の広い林道となる。いろいろな話をしながら、快調に下り、福ちゃん荘に14時50分頃到着する。15時30分に予約していたタクシーも、すでに2台来て、待っていた。ここにHさんの車を止めていただいたので、

みんなでいろいろと買い物をするにしていたが、後のグループがまだ着かない。いくら何でも遅すぎると思い、ザックを置いて林道に戻ってみる。下りてきた単独の登山者に10人くらいのグループを見かけなかったか聞いたところ、集まって相談していたということだった。「あー、これは何かあったな」と思い、さらに戻ると、Mさんを背負ったSさんを先頭にみんなが下りてきた。話を聞くと、林道に転がっている石に足を取られて転んだ際、捻挫したようだとのこと。先日の石老山でのことがあったので心配したが、何とか自力でも歩くこともできるので、少し安心した。

来た時と同じように、タクシーとHさんの車に分乗して、塩山駅へと向かった。すっかり寝込んでしまい、気が付いたら塩山駅だった。すばらしい天気恵まれ、雄大な展望を楽しめた1日でした。みなさま、お疲れさまでした。

コースタイム

福ちゃん荘(10:40)…雷岩(11:50)…大菩薩嶺(12:05) … 雷 岩 (12:25-13:00) … 大 菩 薩 峠 (13:50-14:10)…福ちゃん荘(14:50)

★子ども登山教室スタッフ養成事業（甲斐駒ヶ岳）（9月18日～19日）

参加者 会員(障害者1名、健常者3名)

☆9月18日

今回は、子ども登山教室スタッフ養成事業の総合講習として、岩場の通過と体力づくり、ペース配分などを主体として甲斐駒ヶ岳で実施した。

小淵沢からタクシーで竹宇駒ヶ岳神社手前の駐車場まで入る。ここで登山届けを提出し、歩きはじめる。今日は、Tさんに先頭で歩いてもらうことにする。神社を過ぎ、尾白川にかかる吊り橋を渡って、登山道へと入っていく。

今日の登りは、標高差で約1,600m、明日は約600mの登りだ。アルプス3大急登など有名な登りがあるが、全体で2,200mの標高差を持つ尾根は、ここと剣岳の早月尾根くらいではないだろうか？とにかく、体力づくりと自分の体力を確かめるには、もってこいの尾根だ。

Tさんが先頭で登り始めたが、少しペースが速いなど感じた。しかし、今回のメンバーが強いことと、バテてつぶれてしまうほどのペースではないため、口出しせずに自分の考えで登ってもらう。

鬱蒼とした樹林帯をひたすら登っていく。ト

ラバースして尾根に出て、かつてあった尾白川へ下りる道の跡を通り過ぎ、さらに尾根を登っていくと、横手駒ヶ岳神社への分岐である笹の平分岐に到着した。竹宇駒ヶ岳神社で高度計を合わせてきたのだが、どうも100mほどずれている。このあとも、50mのずれになったり、100mになったりと、どうも地図がいい加減なのではないかと思われた。

分岐の少し上の明るいところで昼食を取り、さらに登っていく。八丁登りの急な尾根を登り、さらに行くと、有名な難所の刃渡りとなる。ここで固定ロープの練習をしようと思ったのだが、しっかりと鎖の手摺りが付いていて、拍子抜けのため、止めてそのまま登ることにした。しかし、その後も痩せ尾根が続く。ハシゴが出てきたり、栈道が出てきたりするが、ぐいぐい登っていく。

かつて修験者が登ったこのコースには、至るところに祠や剣のようなものがある。刀利天狗にもたくさんあった。刀利天狗からは、黒戸山を巻いて五合目へと通じている。少し下った鞍部に五合目小屋の跡がある。小屋跡の下斜面には、空き缶などが山のように捨てられていた。かつて小屋があった頃に捨てられたものだろうか？ よい山なのに残念でならない。



さらに少し下ったところに屏風岩があり、その右手から、長いハシゴが伸びている。みんな疲れが出てきて、もううんざりという

ところだ。気持ちを整えて登っていく。しかし、その上も、次々にハシゴが現れる。これでもかと続くハシゴをがんばって登っていくと、ようやく七丈小屋に到着した。テントの受付をし、水を満タンにして上のテント場まで行く。下のテント場は16張りほど張っており、上のテント場で張ることにする。ここもすでに10張り以上張っていていっぱいだったが、一番隅に張らせてもらった。今回は、4人用テントに男3人が入り、ゴアのツェルトに女性のTさんに入ってもらおう。

Sさんが何とステーキ用の肉や、野菜などを持ってきてくださり、さみしいはずの夕食もしっかり豪勢なものになった。

この付近は、完全に雲の中に入っていて、景色は見えず、少し冷たいものも感じられた。すきま風の入るツェルトに一人で寝るTさんが寒くないか心配だったが、ほっかいろうが威力を発揮して眠れたようだ。

☆9月19日

3時半に起きると、すばらしい星空だった。今日の展望に期待が高まる。他のテント組も半数くらいが起きて朝食や出発の準備をしている。我々も、小屋まで下りて用を足し、出発する。今日は、Sさんに先頭で歩いてもらう。今日も急な登りで始まる。ハシゴや鎖も何度か出てくる。

登り始めて20分くらい経ったころだろうか、東の空に真っ赤な太陽が上がってきた。すりガラスのような雲を通して見るせいだろうか、周囲に光を放つのではなく、丸い形が良く分かる太陽だ。

朝日を浴びて登っていくと、八合目御来光場に到着する。ここから見る甲斐駒ヶ岳は、駒津峰側から見る感じと大きく違って、かなり黒々とした迫力ある山容だ。山頂の真下には、赤石沢奥壁が広がっている。昨日テントで泊まった人の中にもこの赤蜘蛛ルートを登る人がい

たが、もう取り付いだろうか？



2日目は鎖場の連続となる

のような所をぐいぐい登っていくと、9合目付近だろうか、剣の立つ岩の上に人が立っているのが見えた。その下まで登っていくと、逆相の急な岩で、ちょっと登る気にならなかった。ザックを背負ったまま登っている人もいたが、元気な若者だ。

連続した鎖場も、そろそろ終わり、右手には山頂の祠も見えてきた。ザレの混じった岩場を登っていくと、山頂手前のピークに真新しいコンクリート製の祠があった。山頂はそこから5分もかからない。

ようやくたどり着いた山頂は、人でごった返していたが、重い荷を背負って長い登りをがんばって着いた山頂は、大きな達成感に満たされた。展望は、当然360度。隣の仙丈ヶ岳から北岳、間ノ岳、塩見岳、荒川東岳、鳳凰三山、雲海の上に奥秩父、八ヶ岳、蓼科山、そして、手前の鋸岳の後には、北アルプスの山々が見える。さらに、乗鞍岳、御岳、中央アルプスと続く。富士山は、朝のうち見えていたが、霞がかかってうっすらとしか見えなかった。しかし、北岳は、バットレスが急角度で切れ落ちていて、まさに南アルプスの貴婦人の名にふさわしい山だ。

八合目を過ぎると、これまで以上に鎖場が連続するようになる。垂直に近い鎖場や足が届きにくい高さの岩場などを通過し、岩溝



甲斐駒ヶ岳山頂にて

岩のお立ち台の上で写真を撮ってもらったり、記念写真を撮ったりして、名残惜しい山頂を後に下山にかかる。下りは、摩利支天側からのトラバース道ではなく、直登コースを下ることにする。

ざれたところを下って、岩場の連続する尾根にかかる頃、TさんとYさんがライチョウの声を聞いたという。耳をすましたら、確かに聞こえる。ふり返ると、尾根の左側の岩場に5羽ほどいた。体は大きいものの、まだふっくらぼんやりしている感じで、今年生まれた若鳥らしい個体もいて、みんな一つの家族かと思われた。鶏冠の付いた雄は1羽だけだった。



ライチョウの雄

ここから岩場の連続する尾根を下る。最後の岩場は、垂直に近いクラックの走る岩場で、登ってくる人の大渋滞となっていた。なかなかとぎれないので、お願いをして15人くらいが上った後で下らせてもらう。

六方石で休憩し、痩せ尾根を駒津峰に向けて登っていく。足下には、コケモモの赤い実がたくさんなっていた。ふり返ると、真っ白な甲斐

駒が、三角錐の立派な姿で佇んでいる。今日は最高の天気恵まれた。

満員の駒津峰山頂を後にして、双児山方面に下る。こちら側は、今までの混雑とは違って変わって、かなり静かなコースだった。最後の登りをがんばって双児山に立つと、たおやかな丸い山頂の駒津峰の向こうに甲斐駒ヶ岳がわずかに頭を出していた。ここからは、樹林帯の急坂をぐんぐん下る。

標高差600mをちょうど1時間で下り、北沢峠に到着した。13時5分発のバスの時間までまだ1時間もあるため、長衛荘の前でゆっくりとくつろいだ。

★三国山(9月26日)

参加者 会員(障害者7名、健常者12名)

新宿から平野行き的高速バスは、渋滞に挟まってしまって50分ほど遅れて平野に到着した。そのため、鉄砲木の頭の往復はあきらめることにする。平野からのタクシーも、最も効率よい方法を考え、2往復しなければならない1台には、若手男衆に乗ってもらい、トイレや買い物をする人には、往復して戻ってきたタクシーに乗ってもらうことにする。

我々男衆は、パノラマ台で下りて、三国峠まで歩くことにする。そして、平野で待つ人たちを迎えに行ってもらおう。しかし、この車道を歩いたおかげで、ススキの原と山中湖が見える絶好のビューポイントで写真を撮れた。昨日、初冠雪をした富士山は、残念ながら雲の中だが、こちらはまだ青空が広がっている。

折り返してきたタクシーが我々を抜いていたが、すぐそこが三国峠だった。

ここで、自己紹介をして、樹林帯を歩きはじ

これだけハードな山をこなし、来年度の子ども登山教室に向けて、自信を持ってもらえたのではないだろうか？ 力強い若手スタッフに期待と感謝の気持ちでいっぱいです。

コースタイム

9/18 竹宇駒ヶ岳神社(9:35)…笹の平分岐(11:45)…刀利天狗(14:00-14:10)…五合目(14:50-15:00)…七丈小屋(16:00)

9/19 七丈小屋(5:20)…八合目(6:05-6:15)…甲斐駒ヶ岳(7:40-8:10)…駒津峰(9:40-10:05)…双児山(10:40-10:50)…北沢峠(11:50)

める。タクシーの運転手さんが、2日ほど前に三国山にクマが現れたと教えてくれた。もう忍野の方に移動したようだが、気をつけるようにと言っていた。登山口にも、クマに関する注意書きがあった。

しかし、今日は、山仲間アルプが誇るにぎやか選手が揃っている。さすがのクマさんも恐れをなして雲隠れしたようだ。しかし、イノシシの被害がテレビや新聞で話題になっているが、ここにもたくさんのイノシシがいるらしい。クマよりも、こちらの方が注意が必要かも知れない。

富士山の噴火の時に積もった火山岩だろうと思うが、砂のような地質のために、人が歩いたところはかなりえぐれている。そのため、何本も登山道ができてしまっている。本当は良くないことだが、えぐれているところは、段差が大きく、根がむき出しになったりしているので、歩きやすいところを歩いて登る。

一登りで三国山の山頂に到着した。ここは、山梨、神奈川、静岡の県境だが、木々に被われていて、展望は良くなかった。ここでお昼を食べ、急角度で曲がる登山道を、大洞山方面に向かう。



この道は段差も少なく、アップダウンも少なく、とても歩きやすい。檜木山の山頂は、標識が無く、あっさりと通り過ぎてしまった。登山道の脇には、トリカブトが咲き、マムシグサの赤い実がなっている。肌色のすらっとした木は、ヒメシャラだと思う。ところどころに、クマが爪を研いだような木の皮がはがれたところがあった。また、足下には、イノシシのような足跡が無数にあるところもある。少し前まで、クマやイノシシがいたのだろう。



緩やかに登っていくと、大洞山に到着する。

ここも展望はない。緩やかに下って、アザミ平に着くと、愛鷹山や箱根の山々が見える。愛鷹山の左手には、駿河湾も見えていたようだ。その向こうは、伊豆半島だ。雲が厚くなってきたが、展望はまずまずだった。

ここから、山腹をトラバースぎみに行くと、右手後に、今歩いてきた大洞山がよく見えるところがあった。もうここから籠坂峠は近いだろうと思ったが、ここからの道は、今まで以上に大きくえぐれていて、非常に歩きにくい。滑り安くもあり、慎重に下っていく。途中に「テングブナ」という看板があり、その方向を見ると、大きく枝を広げた立派なブナがあった。

そこを過ぎると、比較的歩きやすくなる。籠坂峠には、トイレがあった。このころから、雨が降り始めた。まだそれほどではないが、雨具を上だけ付ける。あとは、車道を歩いて山中湖バスターミナルに向かう。車の通行量が多いので、注意が必要だ。バスターミナルは、森の駅旭が丘ターミナルの2階部分にある。速いバスで帰るAさんを見送り、食事をしたり、歓談をしたりして、バスを待つ。高速バスは、やはり渋滞にハマり、1時間以上遅れて新宿に到着した。みなさま、お疲れさまでした。

コースタイム

三国峠(11:40)…三国山(12:05-12:50)…大洞山(13:55-14:10)…籠坂峠(15:45-16:00)…山中湖バスターミナル(16:30)

★子ども登山教室スタッフ養成事業（丹後山・中ノ岳）（10月2日～3日）

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)

だ。

☆10月2日

前日の天気予報では、明日は曇り一時雨だが、今日は好天の予報だ。六日町に着くと、周囲の山々も見えて予報どおり、好天が期待できそう

十字峠でタクシーを下車し、登山届けを提出して、林道を歩きはじめる。三国川は、エメラルドグリーンの美しい流れを見せてくれる。50分ほど歩き、桁の木橋を渡ったところに、登山口がある。休んでいると、スズメバチが1匹来て、うろついている。刺激しないように、ゆっくり動いていたが、なかなかどこかに行かな

いので、すぐに出発することにする。

登山道は、いきなりの急登となる。標高差で400mほど登ったところで、ようやく傾斜が落ちる。そこがカモエダズンネだ。どういう意味なのか全く分からないが、中ノ岳も見え、休憩に良いところなので、昼食タイムとする。

ここを過ぎても、登りはじめほどではないが、急な登りがどこまでも続く。ブナの林に心は和むが、登りはきつい。特に、今回は水場がないため、各自3リットル以上の水を背負っている。

登るにつれて、展望は良くなってきた。時々、中ノ岳や下津川山方面が見えてくる。ようやくジャコの峰に到着。ここが四合目だ。厳しい登りであったが、ペース的にはまずまずだ。余裕を見ている計画よりは早く登っている。



丹後山に向けて登る

ジャコの平を過ぎ、八合目に14時55分に到着。丹後山の山頂が間近だ。丹後山は、非常になだらかな山だ。稜線に出ると、水場への標識があったが、避難小屋にいた方に聞いたら、水は涸れているとのことだった。ここから南への稜線は、非常にたおやかでやさしい尾根が続いているが、登山道はない。ただ、笹藪にわずかに人が歩いたと思われる笹がへこんだ跡があった。

避難小屋は、ほとんど山頂といって良い場所に建っている。荷物を分岐に置いて、山頂に向かう。明日の天気が悪くならないようなので、今日のうちに山頂での集合写真を撮っておきたかった。

山頂で写真を撮った後、避難小屋に戻る。避

難小屋には、すでに大勢の先客がいた。私たちは、2階の一画を確保させていただいた。小屋に着いたら、天気図を取ろうと思っていたが、山頂に着いた頃からすっかり忘れていて、思い出したのは、翌日、兎岳を過ぎた頃だった。



甲斐駒ヶ岳山頂にて

☆10月3日

朝、起きると、外は深い霧に包まれている。朝食を済ませ、出発準備をするが、まだ真っ暗な霧の中のため、危険と判断し、もう少し小屋内で待つことにする。

他のパーティーの体操に合わせて、我々も簡単なストレッチをする。そして、5時少し前に薄明るくなってきたので出発する。

ヘッドランプを付けて歩いていたが、20分ほどで必要なくなる。しばらく歩くと、利根川水源の碑に到着した。ここは、利根川の水源地だ。尾根の右側に落ちた水は、利根川から太平洋に注ぎ、左側に落ちた水は、三国川から魚野川となり、最後は信濃川となって日本海に注ぐ。分水嶺の尾根だ。

さらに登っていくと、大水上山に到着する。この山も、どう読むのだろうか？ 水上町の最北部にあるので、「おおみなかみやま」と読むことにする。

ここから少し下って兎岳の登りにかかる。この頃から、空が明るくなり、一瞬、霧が晴れて中ノ岳と八海山が見えた。チラリとしか見えないのも良いもんだね～と言いながら登っていると、次第に霧が晴れることが増えてきた。しかも、中ノ岳には日が当たっていて、上空は晴

れているようだった。

兎岳もまだ霧の中だった。雨がふらないだけ良かったねと言いながら兎岳を下っていくと、なんと霧がサーッと晴れて、中ノ岳から越後駒まで、よく見えるようになった。荒沢岳も雲の上に山頂を見せている。

滑りやすい道を下り、なかなかきつい小兎岳の登りをがんばる。小兎岳の山頂は、とても痩せていて、休憩するところがない。それでも、日が当たって暑くなってきたので、樹林帯で雨具を脱ぐことにする。ゴゼンタチバナやマイヅルソウの実がたくさん付いている。



小兎岳からの稜線は、今回の核心部だった。北ノ又川側が切れていて、滑りやすい岩場も多かった。行く手には、中ノ岳がひときわ高く聳えている。北ノ又川の上流の滝沢には、まだ雪渓が残っている。滑りやすい尾根を慎重に通過し、中ノ岳への最後の登りにかかる。ここも急登で苦しい登りだ。ふり返ると、これまで歩いてきた稜線が見えるが、兎岳から南の稜線は雲の中に隠れている。群馬側から押し寄せた雲が巻機山へと続く稜線を境に、滝雲となって流れ落ちるように消えていっている。低気圧に吹き込む南東風が上昇気流となって雲を作り、この稜線を越えたところで、下降気流になって雲が消えていくのだろう。とにかく、これまで見たことのない素晴らしい光景だ。

雲の上には、尾瀬の燧ヶ岳と平ガ岳が浮かび、その右には、至仏山なども見えている。燧ヶ岳のさらに左には、会津駒ヶ岳も見える。荒沢岳

の左に見えた山は、会津朝日岳だと思われる。

がんばって登り、池ノ段に到着する。私とSさんは、ここにザックを置いて、食料と水だけを持って山頂に向かうが、他の人はザックを背負って山頂に向かう。

山頂には、いくつかの瘤を超えることになるが、山頂付近の紅葉はすばらしい。ようやく山頂に到着すると、すぐ近くに中ノ岳避難小屋が見え、越後駒ヶ岳もすぐそこに見える。八海山もよく見え、その左手には米山が見える。さらに左手には妙高連山と黒姫山が見え、上越の山々が連なっている。苗場山まではよく見えたが、巻機山は滝雲に山頂付近を隠されている。



越後駒ヶ岳の右には、守門岳が見え、その右手には、毛猛山や浅草岳、その奥、遠くには飯豊連峰も見える。手前には、未丈が岳も見えている。日本海もうっすらと見えていた。360度の大展望を楽しむ。そして、山頂の西面には、すばらしい紅葉が広がっている。



山頂でゆっくりと景色を楽しみながらお昼にする。昼食後は、来た道を池ノ段まで戻り、

また重いザックを背負って歩くことになる。十字峡に向けた下山道も急な下りの連続だ。標高差で1700mある。しかし、後を振り向くと、すばらしい紅葉が楽しませてくれる。



小天井は、七合目だった。こちらから見る中ノ岳は、兎岳方面から見た荒々しさとはうって変わって、大らかに羽を広げたような山容を見せる。

さらに下っていくと、私の右側の靴の裏が何かおかしい。もしかしてと思って見てみると、底がはがれていた。程度は少なかったが、左側もはがれ始めていたので、両方とも、テーピングのテープでぐるぐる巻いて補修する。



先に下ったみんなを追いかけ、追い越し下っていくと、生姜畑と呼ばれる湿地帯に出た。池塘がいくつかあり、草原もあった。池塘には中ノ岳が映っていた。ここから少し登ると、日向山に到着する。ふり返ると、滝雲はすっかり消

えて、今日、歩いてきた稜線がよく見える。丹後山の山頂付近には、避難小屋も見えていた。良く歩いてきたなど感嘆の声が上がる。滝雲は消えたが、この頃から上空には、少し厚い雲が広がりだした。天気は悪化に向かっているようだ。

ここからもぐんぐん下り、千本松原を過ぎ、鎖場を通過すると、水場の標識があった。遅れて下りてくる人たちに水をあげようと、私とSさんで水を汲みに行く。小さな沢をチョロチョロと水が流れていた。飲むと冷たくておいしい。

水を汲んで登山道に戻った時、ちょうど全員到着した。みんなごくごくとおいしそうに飲んでいて。早足組の先頭3人は、どんどん下っていく。車道が近づき、最後にコンクリートの階段を下りると十字峡の登山センターに到着した。15時ちょうど。後の4人は、15時20分に予約したタクシーが到着するとすぐに到着した。

帰りのタクシーの中では、運転手さんのまむし談義を聞きながら、越後の山のおもしろさと手強さを感じていた。1700mの下りは、誰もがこたえたようです。YさんとSTさんも、今までで一番きつい山行だったと言っている。良いトレーニングになったでしょうか？

コースタイム

- 10/2 十字峡(9:35)…栃の木橋(10:25)…カモエダズンネ(二合目)(11:40-12:00)…ジャコの峰(四合目)(13:10-13:20)…ジャコの平(14:00-14:10)…丹後山(15:35)
- 10/3 丹後山避難小屋(4:55)…大水上山(5:45-5:50)…兎岳(6:30-6:10)…中ノ岳(10:15-10:55)…分岐(11:05-11:15)…小天井(七合目)(11:55)…日向山(五合目)(14:40-12:55)…十字峡(15:00)

★一ノ倉沢・天神山(10月23日～24日)

参加者 会員(障害者5名、健常者7名)

休憩の後、少し時間をもらって一ノ倉沢を遊らせてもらった。かなり近づいたところで、写真を撮って引き返す。出合方面には、白毛門と笠ヶ岳がよく見えた。

☆10月23日

上越線の各駅停車で土合駅の下りホームに降り立ち、名物の486段の階段を登る。この階段は、私と数十年ぶりのAさんを除くと、全員初めての体験だ。疲れた人も、物足りなかった人もいたようだ。

土合駅から外にでると、道路は渋滞となっている。ほとんどが、ロープウェイで天神平に登って、紅葉を見物する人たちだろう。私たちは、一ノ倉沢に向けて車道を歩く。

慰霊碑にも立ち寄る。一人一人の名前が刻まれた碑を見ていると、谷川岳は800人以上の遭難死者がいる魔の山であることを改めて感じさせられる。岩壁に、初登攀者としての名前を残そうと、憑かれたように岩壁へと向かっていったのだろう。

ロープウェイの駅に立ち寄ると、30分待ちらしい。さらに増えるかどうか心配もあったが、まずは一ノ倉沢に向かう。

西黒尾根の登り口を過ぎ、まずはマチガ沢が目飛び込んでくる。紅葉のピークには、もう少し日数がかかりそうだ。さらに車道を歩く。湯松曾川を隔てた対岸には、明日登る予定の白毛門が聳えている。東尾根の末端を回り込むと、まずは清水峠方面が見えてくる。そして、一ノ倉沢の迫力ある岩壁が目の前に広がると、歓声が上がる。まずは、全員で写真を撮ってから昼食とする。昨年来た時は、一ノ倉沢はたっぷりと水量があったが、今日は、全くないと言って良いくらいだった。伏流水となって流れているのだろう。一ノ倉沢の出合付近は、なかなか見事な紅葉だ。ピークにはもう2～3日かかるだろうと思われるが、色鮮やかな木もあった。



一ノ倉沢出合にて

昼食後は、ロープウェイの駅まで歩き、ロープウェイに乗ろうとするが、何と1時間待ちとのことだった。しかたなく、1時間待ってロープウェイで天神平に上がる。天神平から谷川岳山頂方面に歩き、天神尾根に出たところで、引き返すようにして、天神山を目指す。天神尾根の紅葉は、ややピークを過ぎていたようだった。谷川岳の山頂もよく見える。天神山の山頂は、ロープウェイの駅の少し先にある。展望はまずまずだが、特にこれといった特徴のある山頂ではなかった。ただ、鐘があったので、Fさんが叩いていた。



一ノ倉沢出合から見た笠ヶ岳と白毛門

ここからは、スキー場を下り、ロープウェイの駅に向かう。朝日岳と笠ヶ岳にかかっていた雲が晴れて山頂がよく見えるようになっていた。そして、ロープウェイを待つ列は大幅に伸

びて、2時間待ちとのことだった。私たちは、2時間もあるのなら、その間に楽しまない手はないと、飲み物を買いに走り、持ってきたものも出して、歓談しながら時間を待っていたら、あっという間に乗車できた。我々は、時間を有効に使って楽しむ達人ですね。

麓に下りて、今日中に家に帰るMZさんと別れ、本隊は土合山の家に向かう。土合山の家の夕食は、昨年同様、蟹が出た。豪華な夕食を楽しんで、明日への英気を養う。今晚、土合駅に着いて合流するMTさんをTさんたちが迎えに行ってくださった。

☆10月24日

朝起きると、雲は薄そうだったが、晴れ間はほとんどなかった。6時からの朝食を食べ、6時45分に出発する。

東黒沢に架かる橋を渡り、少し歩いたところから急登が始まる。とにかくこのコースは、山頂まで一直線に登っていく。次第に紅葉した木が増える中を、木の根に掴まりながら、ぐいぐい登っていく。



谷川岳オキノ耳(左)と一ノ倉岳(右)

標高 1,000mを過ぎた頃から前と後の差が開き始めた。ただ、それほど大きな遅れではないため、様子を見つつ登っていく。左手には、谷川岳や一ノ倉沢が時折見えるようになる。日が当たると陰影がしっかりと出て、とてもすばらしい。右下には、白毛門沢の流れも時々見えた。岩場が出てくると、富士山も見えるようになってきた。

ロープの着いた岩場や鎖の付いた岩場を登っていくと、松の木沢の頭に到着する。目の前に白毛門がどんと構える。山名の由来となった、門のように立つジジ岩とババ岩もよく見える。

遅れ気味だった人たちのペースが心配だったが、全員健常者だったので、行けるところまで行って、無理だと思ったら引き返すことにした。



鎖場を登る

松の木沢の頭からはしばらく痩せ尾根が続く。途中、危険な岩場もあったが、無事に通過し、山頂への最後の登りにかかる。全盲のMTさんにも両手で登ってもらうところが増えてきた。後の人たちも、少し遅れ気味ではあるが、しっかりと登ってきている。

山頂手前のピークに立ち、最後の鎖場を登ると、白毛門の山頂に着く。少し遅れて、全員が山頂に到着した。山頂に立つと、北側の朝日岳と笠ヶ岳がとてもよく見える。蓬峠から谷川岳の稜線もよく見える。茂倉岳の右奥には、苗場山の特徴的な山容も見えていた。



白毛門山頂にて

谷川岳の左には、浅間山が見えていたが、そ

の左手に見えていた山は八ヶ岳のようだった。富士山は、墨絵のようなシルエットで遠くに見え、手前には榛名山、そして左手には赤城山、上州武尊山、日光白根山、尾瀬の笠ヶ岳と至仏山、その左奥には、燧ヶ岳も見えていた。



真っ赤に色づいたウルシ

素晴らしい展望を楽しんで、下山にかかる。下りは岩場が多いため、登りよりも慎重に下らなければならない。ロープを持ってきていたので、山頂直下の鎖場では、ロープで確保しながら下った。その後は、順調に下っていく。途中で、THさんが急斜面の樹林の中に転がったが、近くにいた私とYさんで腕を引いて、身体を持ち上げ、難を逃れた。

とにかく、1,000mも標高差のある下りのた

め、膝にはこたえる。ゆっくりペースだったこともあり、予定の15時30分の電車には乗れなくなった。踏切の音や電車の音がして、「予定の電車が行ってしまった」としっかりとあきらめもついた。

最後、つま先が痛かったということで、MNさんが遅れたが、いつもお世話になるYさんが救援に行ってくれて、全員、無事に土合駅に着いた。

今度の電車は、18時22分。1時間40分ほど待ち時間があるが、昨日のロープウェイ乗り場と違って、ここには椅子もテーブルもあるため、待ち時間を楽しみながら反省会を行った。

コースタイム

10/23 土合駅(10:20)…一ノ倉沢(11:50-12:40)
…ロープウェイ(13:50-14:55)…天神山
(15:45)…ロープウェイ(16:10 1時間半待ち)
10/24 土合山の家(6:45)…松の木沢の頭
(9:55-10:20)…白毛門(11:20-12:00)…松
の木沢の頭(13:10-13:20)…土合駅
(16:40)

★六甲山(11月13日～14日)

参加者 会員(障害者6名、健常者7名)

☆11月13日

夜行高速バスが40分ほど遅れて三宮に着いた。朝食や昼食を購入していなかったため、コンビニを探したが、人に聞いても見つからず、あきらめて芦屋川駅で探すことにする。幸い、先に着いたYさんに聞いたら、近くにコンビニがあることが分かり、ホッとす。

阪急の三宮駅で、関東から来たメンバーは全員合流し、芦屋川に向かう。芦屋川で電車を降

りると、地元のYさんが待っていてくれた。また、先日の視覚障害者交流登山でお会いした大阪のHCかざぐるまの方たちも5人で来て、待っていてくださった。

コンビニで食料を仕入れた後、自己紹介をする。そして、高座の滝に向かって車道を歩きはじめる。芦屋川の畔の並木は、紅葉が始まっていきれいだった。川の水は、さすが六甲の水だけあって、町中を流れているのに、澄んできれいだった。

高座の滝の脇には、藤木九三のレリーフがあった。トイレと朝食を済ませ、急な登山道を登っていく。この尾根は、花崗岩でできているため、何度か急な岩場を登る。登山者は、非常に

多いが、若い人が大勢いるので、驚かされる。私たちの後には、大勢並んでしまっているが、追い抜いてもらうのを待っていると、いつになっても山頂に着かないと思い、「脇を追い抜いていってください」と声をかける。幸い、登山道は比較的幅が広くて、追い抜くスペースがあった。

かざぐるまのKさんから、ロックガーデンにある岩の名前を何度も教えていただく。阪神淡路大震災の影響をここもたくさん受けていて、崩れてしまった岩場も多いそうだ。町の方を見ると、霞んでよく見えないが、黄砂の影響だそうだ。こんな秋にめずらしい黄砂を恨めしく思うが、自然には勝てないので、仕方ないですね。



高座の滝から岩場登りが何方所も出てくる

傾斜が落ちてくると、風吹岩が近いはずだ。風吹岩の周辺はイノシシが大変多いそうで、そこでは休憩しない方がよいらしい。昼食休憩は、さらに進んだ雨ヶ峠で行うことにする。

風吹岩の付近から、ロックガーデン方面がよく見えた。しかし、時間がかなりオーバーしてしまっている。ここからは大変な道はないそうだが、かなり疲れている人もいたので、様子を見ながらいくことにする。

雨ヶ峠では、かざぐるまのKさんとSさんが先に行って、コーヒーを作っていてくださった。Sさんからは、神戸の名物のなんとか饅頭（すみません名前を忘れてしまいました）もいただいた。どちらもおいしく、食後には最適だった。

雨ヶ峠から下っていくと、林道の一画にでた。ここから六甲山まで標準タイムは50分ほど

だが、行けないのではないかと心配してくださったかざぐるまのKさんやOさんは、林道を歩いて芦有ドライブウェイにできればバスで有馬温泉に行かれると教えてくださる。しかし、ここまで来て、六甲山の山頂に立てないと、残念な人が多いので、もう少し、がんばってもらうことにする。



HC かざぐるまの3人とHさん(最後尾)

この登りは、七曲がりだが、歩きやすい道が続いたので、比較的順調に登ることができた。稜線付近に近づくと紅葉もきれいになってきた。

ようやく一軒茶屋に到着する。かざぐるまの方たちは、何度も来ているので、山頂には行かないといていたが、みんなで写真を撮ろうということで、全員で山頂に立った。どんよりした曇り空と黄砂の影響で、わずかに霞んだ麓がうっすらと見える程度だった。



六甲山最高峰の山頂にて

ここから私たちは、山道を下ると時間が遅くなりそうなので、ロープウェイで帰ることとする。登山道で有馬温泉に下るかざぐるまのみなさんとここで別れとなる。また、再来年の京

都での交流山行で会いましょうと約束して、名残惜しく分かれた。ただ、Oさんだけは、一緒に歩いてロープウェイで下りてくださった。

稜線にはハイキングの山道もあるが、時間がかかりそうなので、舗装道路を車に注意しながら歩く。ロープウェイの最終発車時刻が分からず、心配していたが、17時少し前に着いて、無事に乗ることができた。着いて切符を買おうとすぐにロープウェイが発車となるが、全員の分を買えなかったため、今日、夜行バスで帰る3人とかざぐるまのOさんに先に乗って、帰っていただく。ちょっとあわただしかったが、4人は無事に帰っていった。

残った我々は、暗い夜道を歩いて、メープル有馬に入った。ここは、無色の銀の湯だった。リッチな料理を堪能して、眠りについた。

☆11月14日

朝食を一番に取り、食後のコーヒーを飲んでいたら、近くの瑞宝寺公園の紅葉が見頃だから行かないともったいないですよと教えていただき、みんなでちょっと寄り道することにする。



瑞宝寺のすばらしい紅葉

行ってみて、とにかく紅葉の美しさに驚いた。赤や黄色のモミジが、周囲を染めていて、本当に美しい。太鼓滝が見えるところまで行って引き返す。公園をでたところで丹波栗を売っていたので、その大きさに驚き、一袋買ってしまった。

Hさんが風邪を引いて体調が悪そうなので、ロープウェイとケーブルを使って早く下りよ

うかと思ったが、本人はがらがら声だが、体調は悪くないというので、予定どおり摩耶山まで行くことにする。

ロープウェイの山頂駅から車道や山道を使って、稜線を歩いていく。車道には、ホテルや交番、郵便局もあり、もうここは山ではないようだ。記念碑台を過ぎ、市立自然の家からは、大勢の六甲山全山縦走のランナーと行き交うことになった。



カケス

杣谷峠は知らないうちに通り過ぎ、車道から分かれてアゴニー坂を登る。「美しい鳥がいるよ」という声が後から聞こえたので、行ってみると、カケスだった。何とか、写真に収めることができた。



摩耶山付近の紅葉

摩耶別山を通り過ぎると、美しい紅葉が見られるようになる。そして、階段を上がると、摩耶山のロープウェイ乗り場に飛び出した。麓がよく見える東屋で昼食とする。縦走大会のランナー向けのレモン湯をNさんたちがもらってきてくださり、とてもおいしかった。

時間もかなり遅くなっていたので、ここから

はロープウェイとケーブルを乗り継いで下ることにする。ロープウェイから見下ろす紅葉もなかなかきれいだった。

ケーブルの下からバスに乗り、新神戸駅へ行く。ここで、観光をしていく3人と別れ、他のメンバーは、Yさんと一緒に三宮で、反省会をしていくことにする。

下見もしてくださったYさんに感謝し、我々は、名残惜しい六甲を後に、新幹線に乗りして関東へと向かった。

★大高取山(11月18日)

参加者 会員(健常者8名)
会員外(健常者1名)

朝5時頃、Nさんから電話があって起こされる。しかし、電話を取る前に切れてしまった。まだ寝ていると判断して、すぐに切ったのだろう。

外を見てみると雨が降っている。すぐにテレビをつけて天気予報を確認する。予報では、これから回復することになっている。それを信じて、今日は決行することにする。

越生駅に着くと、雲が多いものの、ほぼ晴れ上がっている。今日、久しぶりに参加してくれたMさんも加わって、自己紹介をしてから歩き始める。



柿の実を食べるメジロ

越生は、ゆずの里を標榜するだけあって、と

コースタイム

11/13 芦屋川駅(9:40)…高座の滝(10:10-10:35)
…風吹岩(12:10)…雨ヶ峠(13:20-13:45)
…一軒茶屋(15:30-15:40)…六甲山最高峰(15:47)…六甲有馬ロープウェイ山頂駅(16:45)

11/14 六甲有馬ロープウェイ山頂駅(10:10)…記念碑台(11:00-11:15)…摩耶山(13:15)

ころどころでたわわに実ったゆずを見かける。熟した柿の実には、メジロが集まって、おいしい実を食べている。こちらは、途中にたくさんなっていたイチゴの実を食べる。こんな秋にできるイチゴは、何というイチゴだろうか？ なかなかおいしかった。

車道を歩いて虚空蔵尊に行き、階段を上がって本道まで行く。ここは、狛犬ではなく、虎と牛が設置されている。寅年と丑年に、ご開帳されるらしい。

虚空蔵尊から先は車が入れないようにゲートが設置されている。しかし、登っていくと再び車道に出る。途中、たくさん実ったゆずに見とれながら歩いていると、道路脇で売られていたので、一袋買うことにする。



桂木観音にて

歩きやすい広い道を登っていくと、視界の良いところにでた。もう少し先の桂木観音で休憩することにする。観音に上がる階段はかなり急

だった。久しぶりに参加したMさんは、体長が思わしくなく、ここから帰るとのこと。残念だが、ここまででも久しぶりに一緒に歩いて良かった。



大高取山山頂にて

桂木観音からは登山道を登って山頂を目指す。途中、間伐材で作ったようなベンチがあったが、そのまま山頂に行って、昼食とする。植林帯の中で展望はなく、日当たりも良くないが、温かくして休憩する。こんな日は、カップラーメンが温かくておいしく感じる。Kさんからい

ただいたパイナップルも最高だった。

ここから、予定では西山高取に行くのだが、間違っ引き返さずにそのまま進んでしまった。どうも、昭文社の地図の白丸が山頂だと勘違いしてしまったようだ。引き返すのも疲れるので、そのまま行くことにする。

自然休養村への分岐を過ぎて、さらに行くと、越生梅林の手前の車道に出る。この付近の民家の風景はなかなかすばらしい。

車道に出てからは、梅林の入口を通り過ぎ、そのまま越生駅まで歩いた。予定より、少し早く駅に着き、八高線で帰るNさんと別れ、我々は東武線で帰宅の途についた。

コースタイム

越生駅(9:20)…虚空蔵尊(9:55-10:15)…桂木観音(11:00-11:15)…大高取山(11:45-12:20)…越生梅林(13:00)…越生駅(13:40)

鷹ノ巣山がサポート不足のため、また稲含山が雨のため、中止となりました。

講習会報告

★子ども登山教室リーダー養成事業・ザイルワーク講習（日和田山）（9月5日）

参加者 会員(障害者3名、健常者8名)

講師：志村博光、講師補助：相澤篤

子ども登山教室スタッフ養成事業の今年度第2回目は、講師に日本登攀クラブの志村博光氏をお招きし、日和田山でザイルワーク講習を行った。

まずは、今までの岩登り技術講習会で行ってこなかった肩がらみによる懸垂下降を教えてください。エイト環などの器具を使った懸垂下降に比べて危険度が高く、熟練を要するが、ハーネスやエイト環などを持って行かない通常

の登山で、もし崖下などに転落者がした場合、この方法を知っておかないと転落者の所まで下りていくことができないため、非



肩がらみ懸垂の指導をする相澤さん

常に大切な技術である。初めて経験する人が多かったため、ぎこちなかったが、とても良い経験になった。

その後、ブーリン結び、プルージック、半マスト結びなどを教えてもらい、男岩西面の壁で、もしもの場合に備えて、ロープ確保をしたまま、少し長い懸垂下降の練習を行った。

昼食後は、まず岩場に固定ロープを張って、そこに安全確保をして通過する方法をご教示いただく。

岩場に来て実際に岩に登らないとフラストレーションが溜まってしまうので、最後は実際に岩に登って技術向上を図る。主にレイバックで超える上部のクラック（IV級+）と下部のアンダーリングフェイス（V級）を登る。軽く登る人もいれば、なかなか登れなくてもあきらめず、最後には登ってしまう人もいて、充実し

た練習となった。



最後に、志村氏には講師として多くのメンバーの面倒を見ていただき、ありがとうございました。また、相澤氏にはザイルでの確保や多くのアドバイスをありがとうございました。また、確保などで協力してくださった会員の方に御礼申し上げます。

★子ども登山教室リーダー養成事業・救助講習（日和田山）（11月21日）

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)

失敗したのは私だけだった。

子ども登山教室スタッフ養成事業の今年第5回目は、日和田山で救助講習を行った。

今回は、将来のスタッフを期待している中2の子どもたちも2人参加したので、まずはちょっとスリルがあっておもしろい、チロリアンブリッジに挑戦してもらう。



しかし、子どもたちも大人も、失敗することなく、しっかりとロープを伝うことができた。

次に、急斜面を転落して自力で登れない人を想定し、その人をロープを使って引き上げる練習を行った。テキストは、堤信夫氏著の「全図解 レスキューテクニック」を使った。

まずは、1：1の引き上げを行ってみる。やはり、摩擦

が大きく、引き揚げるのはかなり大変だった。

次に、2：1の引き上げを行ってみる。こちらは、最初は1：1より軽く上げられた





ロープを使って負傷者を引き上げる

が、転落者のK君が、力を完全に抜き、地面に横になっていると、なかなか上げることができず、相当の力を要した。これは、カラビナの摩擦が大きいこともあるように思う。通常のカラビナの代わりに滑車付きのものを使えば、かなり楽に上がるのではないだろうか？

その後、昼食を挟んで、クライミングの練習をする。女岩南面の右側の壁と、女岩西面のチムニーを中心に登った。

ハイキング報告

★第24回ふれあいハイキング（四季の森）（11月7日）

参加者 会員(障害者6名、健常者12名)
会員外(健常者2名)

JR横浜線の中山駅南口から車道を歩き、四季の森プロムナードを通して四季の森公園北口広場に行く。北口広場にある、ビジターセンター公園内の見どころを書いた地図をもらう。



Tさんも久しぶりに参加して歩く

まずは、池の右側を歩いて、葦原を過ぎ、大モミジの谷を歩く。まだ紅葉には早く、うっすらと色づいた朴木がある程度だった。しかし、すぐ近くでコゲラが木を叩いていたりと、エナガやシジュウカラが飛び交う木もあった。「不動の滝」は、どこが滝なんだろうと思うくらい、

水がチョロチョロと流れている程度だった。

不動の滝から階段を上がると、ちびっこ広場だ。そのまま左に進み、右手の階段を下りて、炭焼小屋に向かう。さらに、現在修理中の水車小屋を過ぎたところから、右手に折れ、菖蒲園の脇を歩く。菖蒲の季節には、菖蒲やアヤメがたくさん咲くようだ。菖蒲園を過ぎてから左手の階段を上がって、展望台に到着する。ここで、少し早い昼食タイムとする。展望台は、あまり遠くまで見える大きなものではないが、視界が良ければ、富士山が見えるそうだ。しかし、今日は残念ながら見えなかった。展望広場では、親子が風船を飛ばしたり、犬と遊んだりして、和やかな雰囲気だった。食後は、何人かが、近くにあった岩を登って楽しんだ。



展望台近くの岩に登って手を挙げるHさん

ここからふるさとの森へ向かう。四季の森は、横浜の里山を使って作った公園のため、アップ

ダウンが多く、なかなかおもしろい。ここも大きく下って湿地帯に入り、さらに登ってから下りて、桜の谷に行く。十月桜や冬桜が咲いていた。きれいなシジミチョウも舞っていた。ここから、階段を上がり、山の広場に行く。再度下りて、清水の谷で、アメンボなどを見る。ここは、地元の学校が稲作体験をする場所のようだ。



展望台で昼食中の風景

ここから地下道を通して、じゃぶじゃぶ池に向かう。さすがに寒い季節のため、子どもたち

は水の中に入っていなかったが、多くの子ども連れが広場でくつろいだり、遊具で遊んだりしていた。

野外ステージの脇から、ジャンボ滑り台の横を登って、昼食を食べた展望台の裏側に行く。ここがジャンボ滑り台の下り口だが、子どもたちが大勢並んでいて、さすがに大人だけは、滑れなかった。

展望台で休憩した後、遊具広場の横の道を通って北口広場に戻った。そして、そのまま中山駅に戻って解散とした。

午前中は曇り空だったが、午後から青空が広がり、温かくとても良い一日でした。

コースタイム

中山駅(10:15)…四季の森北口広場(10:30-10:45)…展望広場(11:35-12:25)…北口広場(13:35-13:45)…中山駅(14:05)

★第25回ふれあいハイキング（披露山）（11月28日）

参加者 会員(障害者5名、健常者12名)
会員外(健常者2名)

海の中に立っている不如帰碑が、浪子不動からよく見える。

今日は、素晴らしい天気恵まれた。明け方はやや冷え込んだが、日中はぽかぽか陽気で、横浜市では20度を超えたそう。ただ、風が強かった。

新逗子駅に全員集合し、ガイドブックの地図を頼りに、逗子海岸を目指す。川間川を渡ると、海が見えてくる。逗子湾は、強い風の影響で、白波が次から次へと押し寄せている。ウインドサーファーは、この風が何よりも楽しいようだ。波の間をすごいスピードで移動している。

白波を見ながら浜辺を歩く。砂浜から車道に上がり、陸側の歩道を歩いて浪子不動に向かう。



逗子海岸の砂浜を歩く

ここからは、急な階段を上がって樹林の中の小径になる。ところどころ、ぬかるんでいて、歩きにくい道だった。この付近の木々は、照葉樹が多く紅葉はしていない。

しばらく歩くと、披露山公園に飛び出した。檻に入れられたウズラやクジャクバト、ウサギ、モルモットなどを見ながら展望台に上がる。富士山がうっすらと江ノ島の向こうに見えてい

た。



披露山公園にて

時間が少し早いが、ここで昼食とする。サルたちもちょうど、昼食タイムだった。トビにおかずに狙われないように気をつけていたが、このトビはまだ警戒心が強く、人のそばまで下りてくることはなかった。

ここから、蘆花記念公園に向かう予定だったが、予定よりも時間が早いので、さらに先の大崎公園に行くことにする。豪邸が建ち並ぶ住宅街を過ぎ、急なコンクリート道を登っていくと、大崎公園だ。リビエラ逗子マリーナのきれいなマンションがよく目立つ。その向こうには、富士山が見えていた。また、お昼を食べた披露山も見えていた。

来た道を引き返し、披露山の駐車場手前で、左側の道を進む。そして、逗子海水浴場に沿っ

た国道134号の歩道を歩いて蘆花記念公園に向かう。渚橋を渡って、少し行くと公園に出る。郷土資料館には入らず、少し歩いてみようと思道の階段を登っていったら、これがなかなかきつい登りだった。登り切って尾根に出たところで引き返してきたが、その先には古墳があったらしい。



海はウインドサーファーでいっぱいだ

蘆花記念公園に寄った後は、富士見橋を渡って新逗子駅に戻った。海の風景を楽しみながら歩いた、あたたかな一日でした。

コースタイム

新逗子駅(9:40)…逗子海岸(9:55)…浪子不動(10:20-10:30)…披露山(10:50-11:50)…大崎公園(12:15-12:35)…蘆花記念公園(13:40-14:10)…新逗子駅(14:40)

高津八福神めぐりミニハイキングが雨のため、中止となりました。

その他事業報告

★やちよ市民活動センターまつり「第7回こんにちは“わ”ふれあいまつり」に参加しました

11月23日(木)に、イオン緑ヶ丘ショッピングセンターで、「第7回こんにちは“わ”ふれあいまつり」が開催されました。当日は、12名の会員のみなさまにご協力いただき、ありがとうございました。おかげさまで、多くの方にブースを訪れていただき、例年になく盛況でした。また、ポスターコンクールも、これまで

で最も良い順位となる4位にな



山仲間アルプのブースにて

りました。これを機に、当法人に興味を持っていただくことができれば、大変ありがたく思います。事前の打ち合わせやブース設置にご協力

いただいたOさん、Mさん、Yさん、大変お世話になりました。

☆八千代市1%支援制度の交付金が決まりました

2年目となる今年は、「自然と親しむ子ども山登り教室」のスタッフの方の交通費や宿泊費などを中心に32万円ほど申請していましたが、選択届け出の結果、39,649円の交付と決まりました。金額は昨年を選択届出結果（昨年は67,540円）よりも少ないのです

が、届出件数は36件（昨年は32件）と増えています。交付金額が少なく、スタッフの方の交通費や宿泊費までまかなえないのですが、支援金をいただけることは大変ありがたく、支援していただいたみなさまに、深く感謝申し上げます。

◆NHK学園発行の書籍「輝く ボランティア・ネットワーキングの20年」に当法人の活動を紹介した文章が掲載されました

理事長が17年ほど前に学んだNHK学園専攻科社会福祉コースを卒業した人たちが、卒業後の活動を行うネットワーク（CSネットワーク）が、20周年を迎え、編集部から活動紹介の執筆依頼がありました。

卒業生の活動は広範囲に渡り、全国でいろんな活動を行っている人たちが大勢います。それ

らの代表事例として一冊の本にまとめられて、出版されました。これを機会に、当法人の活動に興味を持っていただけるとありがたいと思います。

この書籍を読みたい方は、理事長までお知らせください。

◇第12回視覚障害者全国交流登山大会が開催されました

10月9日から11日にかけて、東京都の六つ星山の会主催（当法人は共催）で、第12回視覚障害者全国交流登山大会が開催されました。当法人からは11名が参加し、最もハードな丸黒山コースに1名、最も参加者が多い乗鞍岳コースに10名が参加しました。丸黒山は、山頂まで行くことができたのですが、乗鞍岳は、前日の大雨のため、スカイラインのゲートが開くのが遅れ、山頂手前で引き返すことになってしまいました。

ですが、他の山の会の人たちと交流を図るこ

とができ、仲良くなったかざぐるまの人たちと六甲山を一緒に歩くことに繋がりました。そのようなことから、とても有意義な交流登山だったと思います。

なお、2年後は、京都山の子会が主催することになっていますが、今回、当法人が4年後の主催になるよう代表者会議で依頼がありました。理事会で検討しますが、主催することになった時は、会員みなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

以下は、網干がリーダーを務めた乗鞍岳登山の報告文などです。

☆10月10日

明け方まで雨が降っていたものの、国立乗鞍青少年交流の家をバスで出発する頃には、雨が

上がり、青空も見えるようになっていた。乗鞍岳の山頂方面は、厚い雲に被われているが、これから晴れるのではないかと期待が高まる。

出発準備をしている時、東京からバスで直接、畳平に来るNさんとMさんから、携帯電話に連絡が入る。乗鞍スカイラインが、雨量規制で肩の小屋口から先が、通行止めとのこと。とにかく、畳平に来てもらわなければならないため、車道を歩いて登ってきてもらうことにする。

登山総リーダーのMCさんや事務局長のYさんに話したが、私を含め、全員が、こんなに天気が回復しているので、我々がゲートに着く頃には、規制も解かれているだろうと軽く見ていた。しかし、7時45分に交流の家を出発したバスがゲートに着くと、何と閉まっているではないか。その後、ゲートが開けられるまで、ここで2時間も時間を費やしてしまった。

開く時間がはっきりしない中で、準備体操などをして待っていたが、1時間を過ぎた頃から、もう山頂は無理だなという声が出始める。そこで、山頂に行かれない可能性が高いことと、13時を引き返す目処の時間として、行かれるところまで行くということを、事前に周知する。

10時30分ようやくゲートが開き、バスが動き始める。きれいな周囲の紅葉を楽しみながらバスに乗っていると、森林限界に飛び出す。荒々しい火山岩の岩が累々とするようになる。そんな風景を楽しんでいると、ようやく畳平に到着した。

NさんとMさんとも合流し、トイレなどを済ませてから、速やかに班別に並んでいただく。そして、ようやく山頂に向けて出発する。



畳平から肩の小屋に向けて歩く

しかし、140人以上も人が並ぶと、先頭か

ら最後尾までは100m以上ありそうだ。鶴ヶ池の脇の林道を登り、富士見岳の山腹をトラバースしていく。不消ヶ池（きえずがいがけ）を過ぎると、前方に位ヶ原が広がる。ハイマツと紅葉のコントラストが美しい。遠くの山も山腹が見えている。ホシガラスも空を舞っている。

さらに行った肩の小屋の前で昼食タイムとする。かなり寒かったが、がまんして、今朝いただいた弁当を食べていると、雨が降り始めた。MCさんから、様子を見て、中止するかどうかの判断を任せるとの話をいただく。少し強い雨だったので、これが続くようならすぐに引き返すことにするが、すぐに止む可能性もあるため、もう少し登ってみて判断することにする。

雨は降ったり止んだりで、強く降ることはなく、まだ大丈夫と判断したが、後の方で体力を消耗している人も出ているとの連絡がある。登り始めてすぐなので、やはり山頂を目指したいという気持ちの人も大勢いるため、それらのことも考慮しつつ、後の6班、7班は、同じ団体の班なので、無理と判断された時は、その班で肩の小屋まで引き返してもらうことを念頭に置き、もう少し登ってみることにする。



肩の小屋から乗鞍岳山頂を目指す

標高2,850m付近から、先頭の1班でも遅れる人が出始めてきた。引き返す目処の時間を13時にしていたが、肩の小屋から畳平の間が歩きやすいため、MCさん、Tさんとも相談して、もう少し遅くても大丈夫だろうということで、13時半を目処としていた。

しかし、登るペースが落ち、岩ゴロの道は下

りも時間がかかるだろうと判断し、霧が薄くなり、山頂が目の前であったが、標高2,920mで引き返すことを決断する。

最後方の7班から下っていただくが、1班が下りはじめることができたのは、5分ほどたってからだ。さすがに140人は多すぎるように感じる。順調に下っていったが、先に肩の小屋に着いた人たちから、寒くて待ってられないとの無線も入る。それでも、全員肩の小屋に揃い、班のメンバーが揃ったところから畳平に向かっていただく。私とMCさんで、最後の班が揃い出発したことを確認して、私は先頭グループに追いつくように歩く。

先頭に追いつくと、イワヒバリが現れてくれた。前にいた何人かの方に、イワヒバリを確認していただく。畳平散策のCグループのUさんとも無線で連絡が取れ、もうじき畳平に着くことを連絡する。私たちは、14時25分頃、畳平に到着する。それと同時に、Cグループはバスで畳平を出発した。

班毎の人数確認を行い、土産を買う人などを待って、14時55分に畳平を後に、交流の家に向かった。山頂に立てなかったのは、残念でしたが、別な会の方との交流をしたり、わずかですが風景などを楽しむことができて、良かったと思います。



ボルダリングを指導してもらうSさん

★登山以外の内容

【10月9日】

ボルダリング（体育館にて）

開会式・オリエンテーション

全体交流会（アイスブレイキング、各団体紹介、サポート方法披露）

自由交流

【10月10日】

登山（丸黒山、乗鞍岳、畳平散策、カブト山周辺散策）乗鞍岳は網干がチーフリーダーをさせていただきます

親睦交流会（六つ星山の会、京都山の子会、山口ささゆり会、富山三つ星YOUTA氏のキーボード演奏）

自由交流



交流会の様子

【10月11日】

朝の集い（宿泊者紹介、清掃）

閉会式



六つ星山の会のみなさんと

主催していただいた六つ星山の会のみなさま、楽しい一時をありがとうございました。心から感謝申しあげます。特に、これだけ大勢の参加者を事前準備から当日、そして最後までまとめられた実行委員のみなさまに、深く感謝申しあげます。

そして、遠くから来ていただいたみなさま、 ありがとうございます。

乗鞍岳交流登山感想文

山仲間アルプ F夫妻

こんにちは 今回初めて交流登山に参加させて頂いた、山仲間アルプのY O（弱視）・Y U（弱視）です。

交流登山にはどのような方々が参加するのだろうか？私達はドキドキワクワク、期待に胸をふくらませていました。Y Oはこの日のために「闘魂ハチマキ」を買い、気合いを入れての参加！Y Uは「体育の日だから紅白の運動帽にしようかな？」それと、「この間買った山スカートを履いていこうかな？」などに行く前からはしゃいでいました。さすがに今回は山スカートを履くのは思い止まってくれたようですが……。ともあれ、いざ乗鞍の地に足を踏み入れたバカ夫婦でした。

初日は体育館でボルダリングに挑戦しました。簡単そうに見えたけど、実際やってみると結構難しいです。何度か挑戦しましたが、Y OもY Uもすぐに床に落ちてしまいました。実際の山だったら夫婦共倒れです。

体育館の屋根を叩く雨音が不安で気になっていましたが、次の日登山に出発する頃には雨はあがっていました。私達は二人とも乗鞍岳登山組です。晴れてくれることを祈りつつ、バスに乗り込み出発しました。途中通行止めというアクシデントもあり、昼平を出発したのは11時頃でした。山頂までは無理そうで少しがっかり。

Y Oをサポートしてくださったのは、山ネットのHさんだった。声を聞くととても若いですが、年齢を聞いてビックリ！奈良県の出身だそうです。「奈良県と言えば、熊野古道が有名ですね。」などと言っていると、後ろから「ここも熊の古道よ。」と言っている方が……。確かにそうだ。昼平周辺に熊が出没したと話題になったのは記憶に新しいです。しかし、今日は140名の団体です。熊も恐れをなして逃げて行ってしまうだろうな。

肩の小屋までの道はとても歩きやすい道でした。風がとても心地よく快適な山歩きでした。「雪が見える。」と言う声にあわてて望遠鏡を手にするが、なかなか見つけられません。すると、サポートのHさんが、「この辺よ。」と望遠鏡の位置を変えてくれて、ようやく視界に納めることができました。雪が見えたことも嬉しかったですが、それ以上にそのやさしさがとても嬉しかったです。

肩の小屋から山頂に向かう道は岩が多く140名という団体ということもあり、時間がかかりました。下山してくる一般の登山者に迷惑にならないように登ります、これだけの人数ではなかなか難しいです。H班長が一般の登山者に申し訳なく思ったのか、「闘魂にビンタしていいですから。」と言っていました。「そ、そんなぁ〜。」「助けてえ〜。」結局、乗鞍岳山頂を踏むことはできなかったですが、楽しく登ることができてとても良かったです。

Y Uも いつもは登るのが遅く皆の後ろを歩いていましたが サポートの六つ星山の会のIさんとKさんとの話が弾みいつの間にか先頭を歩いていました。途中での紅葉した景色もきれいでした。さすがにこちらは寒いんですね。やはりスカートを履いてこなくて正解でした。でも すごい人数ですね。

交流親睦会では、皆様の多才ぶりに驚かされました。私達のような無芸大食にはうらやましい限りです。唄あり、楽器の演奏あり、腹話術あり、とても盛り上がりました。そろそろお開きかなと思ったら、舞台の方からどこかで聞いた声が……。なんと我が会の代表Aさんが「勝手にしやがれ」を唄っているではないか！なんて愉快的人なんだろう！唄はともかく、サービス精神旺盛で、人間味あふれる明るさはとても魅力的なのかも？

最終日の朝の集いの時、他の宿泊者の方々に私達の団体の事を知って頂くことが出来誇らしかったです。

YUの部屋の掃除に不手際があり直して下さった部屋長Hさん、すみませんでした。

今回の交流登山はとても楽しく、有意義でした。このような交流会が末永く継続し、皆様との輪が広がっていくことを切に願っています。

最後になりましたが、YOのサポートをして下さった山ネットのHさん本当にありがとうございました。そして、同室だったHCかざぐるまのアイアンマンOさん、色々とお世話になりました。もっとお話したかったです。毎日新聞社のHさん、ありがとうございました。

YUは、今回参加された皆様方全てに有り難うございました、と申しております。

企画、運営に当たった実行委員の皆様方、本当にお疲れ様でした。次回、京都で皆様と又お会いできる日を楽しみにします。

個人山行報告

★鶴寝山(10月17日)

参加者 会員(障害者4名、健常者5名)

この日は、共に楽しむ登山で、鷹ノ巣山を計画していたが、若い視覚障害者の方からの多い申込に対し、全くのサポート不足となってしまったため、残念ながら中止することとし、代わりに難易度を落として、同じ奥多摩で個人山行を行うこととした。

場所は、今年5月に行った奈良倉山のすぐ隣にある鶴寝山とした。下りが少し長いものの、登りがほとんどないので、それならということで、3人の方が参加を申し出てくださった。そのこととは関係ない(一部あるかも知れませんが)、2人の視覚障害者の方がキャンセルとし、連絡のなかった2人の視覚障害者の方には、

あきらめていただきました。

週間天気予報では、余りよくなかった今日の天気ですが、直前の予報では、晴れ間ものぞく予報となって、ありがたかった。

上野原駅で全員集合し、路線バスに乗る。今回も、小菅の湯の割引券をもらえた。

バスに1時間45分も乗車して、ようやく松姫峠に到着する。ここには、立派なトイレがある。人数が少なく、みんな知っているメンバーなので、自己紹介もせず、歩きはじめる。先週の乗鞍での視覚障害者全国交流登山に参加した人が9人中6人もいて、毎度どうもという感じだ。

木々の葉は、緑色が薄くなり、わずかに色づき始めている。足下には、栗の実がたくさん落ちていて。ほとんど登ることもなく、鶴寝山の山頂に到着する。この付近にも、栗が無数に落

ちている。



少し早いですが、山頂で昼食タイムとする。「寒くなってきた」という声も聞こえてきたので、40分ほど休憩して、山頂を後にする。山頂からもなだらかで非常に歩きやすい道が続く。ただ、山沢入りのヌタからは、山腹をトラバースしながら下るようになる。道幅が広いので、問題はないが、谷側の斜面は、かなり切れたところがあった。

この付近には、巨樹が多いようだ。いろんな巨樹を楽しみながら下っていく。大ダワに登る道との分岐で休憩し、ここからは谷沿いに下るようになる。ワサビ田が何カ所もあるが、沢を

渡る木の橋も多くなり、慎重に通過する。最後の手すりのある橋を渡ると、山道は終わり、車が走れる林道となる。



途中から舗装道路となり、道標にしたがって右に上がると小菅の湯に付いた。小菅の湯に浸かって1時間半ほど休憩したが、1本前のバスで帰ることができた。のんびりできた1日をありがとうございました。

コースタイム

松姫峠(10:30)…鶴寝山(11:00-11:40)…山沢入りのヌタ(12:15)…分岐(12:45-12:55)…小菅の湯(13:55)

各種連絡事項

▼臨時総会を開催します

1月10日(月・成人の日)に来年度の年間計画を決める臨時総会を予定しています。詳細が決まりましたら、総会の議案書と共にお知らせ

しますので、ぜひ、今から予定しておいていただき、ご参加ください。

▽活動紹介映写会を開催します

今年度も、八千代市の総合生涯学習プラザで、当法人の活動紹介映写会を予定しています。日程は、まだ決まったばかりのほやほやですが、

2月26日に実施します。ぜひ多くの方のご参加をお願いいたします。

編集後記

・理事長のつぶやき

先日、ひきこもり支援相談士という資格を取

得しました。今年、内閣府から、引きこもって

いる人は、15歳から39歳まで推計で約70万人いると発表されました。しかし、引きこもっていることを隠している家族も大勢いることから、160万人くらいいるのではないとも言われています。

引きこもっている人を「甘えている」とか「怠けている」、また「親の育て方が悪い」という人もまだ大勢います。そのように、他者から悪く思われるという意識が、引きこもっている状況を隠すことに繋がり、より一層、引きこもり状態を強くし、親子二重の引きこもり状態になってしまいます。

引きこもりは、明らかに現代病と言えますが、便利さや物理的な欲望を追いかけ続けて、便利

すぎる社会を作ってしまったことに、大きな原因の一つがあるように思います。

引きこもっている人は外に出ることさえ難しく、人とのコミュニケーションも取りにくい状況です。ですが、いつか、一緒に山を楽しむ状況を作りたいと思い、これから彼らの支援に向けて、がんばってみたいと思っています。

もし、彼らが当法人の登山やハイキングに参加した時は、私は、この人が引きこもりだなどとは言いませんが、どんな人であっても、いつものあたたかな気持ちで迎えていただきたいと思います。その時は、ぜひよろしく願いいたします。

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

